

令和3年11月19日  
(2021年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第三小学校  
校長 桂樹 祐治

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ●国語《概要》

- ・「国語の勉強は好きだ」に対し「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「国語の勉強は大切だ」に対し「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国値をやや上回っている。
- ・「国語の授業の内容はよく分かる」に対し「当てはまる」と回答をした児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「国語の授業では目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたりしている」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っている。

#### ●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

**話すこと・聞くこと** 全国値とほぼ同じである。

- ・設問1(1)「津田梅子についての【スピーチ】の練習の          の部分で話す内容として適切なものを選択する」では、目的や意図に応じ、資料を使って話すということを問われているが、資料の見方による誤答があるだけでほぼ正答することができた。

**書くこと** 全国値をやや下回っている。

- ・設問3(2)「丸山さんの【文章の下書き】の ----- 部を西田さんの話を用いて詳しく書き直す」では、目的や意図に応じて理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するよう問われて

いるが、片方の条件しか満たしていないものが半数近くいた。

**読むこと** 全国値をやや下回っている。

- ・設問2(4)「面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く」では、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約するよう問われているが、すべての条件を満たせず正答できなかった。

#### ●国語科における成果と今後の改善点について

国語については、中心となる語や文を捉えて読んだり、目的の言葉と関係づけて捉えたりすることができなかつたと考えられる。比較的できている「話すこと」の学習を積み重ね、叙述からわかったことを要約したり、自分の考えをまとめたりする取り組みへと発展させていきたい。また、既習した漢字の定着を図るために、朝学習等を利用して復習の時間をとりたい。さらに、児童の主体的に学習に取り組む態度を育てていく必要がある。

#### ●算数《概要》

- ・「算数の勉強が好きだ」と答えた児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「算数の勉強は大切だ」と答えた児童の割合は、全国値をやや上回っている。
- ・「算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っている。
- ・「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法で解きますか」の項目では、肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を上回っている。

#### ●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

**数と計算** 全国値をやや下回っている。

- ・設問1(1)「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く」では、二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを問われているが、順序立てて計算できていないものや無回答のものがあつた。

**図形** 全国値を下回っている。

- ・本領域は全部で3題。3題とも全国値を下回っている。その原因として、多角形の性質や面積の公式を理解していないことが挙げられる。中でも全国値を下回ったのは、設問2(1)の直角三角形の求積(短答式)と(3)の二等辺三角形を組み合わせた図形の内積(記述式)である。図形に記された複数の数値に惑わされたであろう解答が多く見られた。問題の傾向から、記述式で答えることが苦手な児童が多い。

**測定** 全国値をやや下回っている。

- ・本領域は全部で3題。そのうち2題は他の領域も含む問題になっている。設問1(4)の条件に合う時刻

を求める問題(短答式)は、正答率が全国値とほぼ同じである。

**変化と関係** 全国値を下回っている。

- ・設問1(5)「速さと道のりを基に、時間を求める式を表すことができる」では、速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことを問われているが、速さ・道のり・時間の関係を理解できておらず、立式できなかったと考えられる。また、問題を最後までよく読んでおらず、計算の答えを書く必要がないのに、答えまで書いてしまい、誤答になったと考えられる。

**データの活用** 全国値とほぼ同じである。

- ・本領域は全部で5題。うち4題は全国値をやや上回っている。棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ることはできている。問題形式が5問中4問が選択式であり、設問3(4)「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」の記述式問題では、正答率は全国値とほぼ同じであるものの他の設問に比べると低い。

### ●算数科における成果と今後の改善点について

算数について、「データの活用について」は概ね満足のいく結果が出ているが、それ以外の領域では、課題が見られる。質問紙を見ると、「算数の勉強は好きですか」や「算数の勉強は大切だと思いますか」という問いに対して、本校児童の肯定的意見は全国値を上回っている。また、「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法で解きますか」の項目でも、肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っている。このことから、算数の学習に前向きに取り組んでいることがわかる。

今後は、基礎基本の定着を図り、数量やその関係を、一人ひとりが言葉や式、図、表、グラフを用いて表現する機会を取り入れ、自分の考えを友達にわかるように説明したり、友達の考えを理解し、ともに深め合う授業を展開していきたい。また、本校では、算数科における基礎基本の定着を目的に、放課後学習会「すまいる学習」を月1回行っている。(毎月の行事予定に記載)自主的な参加ではあるが、ご家庭でも、放課後学習会「すまいる学習」に積極的に参加するようお声かけをお願いしたい。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

- ・「朝食を毎日食べていますか」という項目に対して、「している」と答えた児童の割合は、全国値をやや上回っている。
- ・携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、「家の人と約束を守っていますか」という項目に対して、「きちっと約束を守っている」と答えた児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」という項目に対して、「当てはまる」と答えた児童の割合は全国値を上回る。挑戦する心が育っていると考えられる。
- ・「人が困っているときは、進んで助けますか。」という項目に対して、「当てはまる」と答えた児童の割合は、全国値より下回っている。

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目に対して、「当てはまる」と答えた児童の割合は、全国値を上回っている。
- ・「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の項目に対して、「当てはまる」と答えた児童の割合は、全国値を上回っている。学校生活の中で、協力するよさを学ぶことができていると考えられる。
- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。」「30分より少ない」「全くしない」と答えた児童が3割を超える。
- ・「土曜や日曜など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」「1時間より少ない」「全くしない」と答えた児童が半数近くいる。
- ・「普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。」の項目に対し、「全くしない」と答えた児童の回答率が最も高かった。
- ・「ICT 機器を、ほかの友達と意見を交流したり調べたりするためにどの程度使用しているか。」の項目に対し、「ほぼ毎日」と答えた児童の回答率が最も高かった。
- ・「ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思うか。」の項目に対し「役に立つ」と答えた児童の回答率が最も高かった。

ルールを守ることや友達と協力すること、挑戦することへの気持ちは、育ってきているようである。一方で、困っている人を進んで助けようという気持ちについては課題であり、困った人がいるときに、その人の気持ちを考えたり、助けることのすばらしさについて考える機会を意識的につくる必要がある。さらに、学習や読書をすることのよさや必要性を知らせていく必要もある。

授業における ICT 機器の使用頻度が高まり、調べ学習だけでなく友達との意見交流も頻繁に行われている。多様な意見の交流から児童の深い学びにつながる指導に活用していきたい。

### 3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、国語科・算数科ともに基礎基本の知識の定着に依然課題が残っている。本校では、漢字や計算等、基礎基本の定着に向けた朝学習や放課後学習などの取り組みを継続していく。今年度研究テーマを「見方・考え方を働かせて、自分の思いや考えを伝えよう」～主体的・対話的で深い学びをめざして～に設定し、見方・考え方を働かせた「一人一人の多様な考え」をもとに、相互に関連付けながら考えを練り上げる過程を大切に授業展開をめざしている。資料や既習の事柄を活用しながら自分の考えを友達にわかるように説明したり、友達の考えを理解したり、ともに考えを深め合ったりする授業を進める中で学力向上を図ってまいります。

また、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、基本的な生活習慣の定着はもとより、生活規律・学習規律等の規範意識の醸成に努めなくてはならない。そのためには、一層、家庭・地域と連携し、学校として子どもたちの自尊感情を育み、人間関係づくりを醸成させる取り組みを進めていく必要がある。今回の分析を踏まえ、努力を重ねてまいりますので、今後も本校の取り組みに対しご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。